8章 目標を達成するために行う事業及び実施主体

目標達成に向けた基本方針に基づく施策・事業の一覧

基本方針1　鉄道を軸とした公共交通網形成						
施策	年度 事業名	令和1～2 (2019～2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)
(1) 鉄道の拠点機能強化	交通結節点として、駅における乗り換え環境の整備	必要性・改善策の検討と実施				
	駅におけるバリアフリー化の促進	バリアフリー化施策について検討し、可能な段階で実施				
	北陸鉄道石川線の安全輸送・利用向上に向けた設備投資及びその支援	継続実施				
(2) JR北陸本線の新駅設置（加賀笠間～松任間）	新駅設置	整備推進				
	新駅を利用しやすい環境整備	整備推進				
(3) 鉄道駅における鉄道と多様なモードの接続強化	駅接続ダイヤ・運行ルートの見直し	継続実施				
	乗り継ぎ情報の提供	毎年のダイヤ改正に合わせ実施				

基本方針2　路線バス･コミュニティバスの持続的な運行継続						
施策	年度 事業名	令和 1～2 (2019～2020)	令和 3 (2021)	令和 4 (2022)	令和 5 (2023)	令和 6 (2024)
(1) 路線バスの運行維持に向けた取組	現行路線網の維持	継続実施	━	━	━	━
	利用実態を踏まえた改善	継続実施	━	━	━	━
(2) コミュニティバス「めぐーる」の継続的な運行	乗降調査による利用実態把握	継続実施	━	━	━	━
	利用実態を踏まえたルート・ダイヤの見直し	継続実施	━	━	━	━
	コミュニティバス車両の計画的な更新	更新計画に基づく計画的な更新	━	━	━	━
	周辺市町のコミュニティバスとの連携	継続実施	━	━	━	━
(3) 利便性に優れた運行	路線バスとコミュニティバスとの接続改善	継続実施	━	━	━	━
(4) 地域主体の新しい運行形態	自家用有償旅客運送等の地域主体の新しい運行形態を検討	国の制度設計を注視し実施を検討	━	━	━	━

基本方針3　公共交通のさらなる利用を通じた外出機会の増加と交流の促進

施策	事業名＼年度	令和 1～2 (2019～2020)	令和 3 (2021)	令和 4 (2022)	令和 5 (2023)	令和 6 (2024)
（1）公共交通に関する情報提供の充実	コミュニティバス大判時刻表・携帯時刻表の発行継続及び改良	毎年のダイヤ改正に合わせ実施				
	鉄道乗継時刻表の発行	毎年のダイヤ改正に合わせ実施				
	地域別「のりかえ時刻表」の発行	毎年のダイヤ改正に合わせ実施				
	情報検索サイトによるコミュニティバス運行情報提供	毎年のダイヤ改正に合わせ実施				
	幅広い世代の市民に向けた乗車機会拡大への取組	事業効果を研究し、可能な段階で実施				
	ニューズレターによる公共交通利用促進の発信	継続実施				
（2）交通事業者と連携したイベントPR	鉄道車両基地の一般公開等のイベント共催	継続実施				
	北陸鉄道石川線のイベント列車、観光企画 PR	継続実施				
（3）地域・企業と連携した公共交通PR	地域イベントと連携した公共交通の利用促進	継続実施				
	企業と連携した公共交通の利用促進 PR	継続実施				
（4）高齢者に向けた公共交通利用PR	コミュニティバスの高齢者無料乗車証の継続発行	継続実施				
	白山市高齢者運転免許自主返納支援事業	継続実施				
	高齢者への乗車体験促進	計画、実施				

基本方針１：鉄道を軸とした公共交通網形成

(1) 鉄道の拠点機能強化

現況と課題

- 鉄道は本市の公共交通網における基幹交通であることから、鉄道をより利用しやすい環境を整えることにより、鉄道を中心とした交通ネットワークの形成が期待されます。アンケート結果でも、拠点となるべき主要な駅での改善要望（待合環境・バリアフリー化等）が多く見られることから、ソフト面・ハード面両面から市内各駅の利用環境を向上させ、鉄道の拠点機能強化を図ることが求められます。

課題解決に向けた取組方針

- 交通結節点としての駅における乗り換え環境の整備を行います。
- 駅におけるバリアフリー施設の整備策について検討・実施します。
- 周辺市町や交通事業者と連携し、多様なモードが結節する鉄道駅等におけるパーク・アンド・ライド及びサイクル・アンド・ライドの利用促進を実施します。
- 北陸鉄道石川線の安全輸送・利用向上のため、鉄道施設への設備投資等への支援を沿線市町と協調し継続します。

具体的な事業・実施主体及び実施時期

事業名	事業の具体的な内容	
交通結節点として、駅における乗り換え環境の整備	・駅におけるパーク・アンド・ライド及びサイクル・アンド・ライドの促進 ・ＪＲ松任駅１階待合室の利用可能時間の拡大	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、交通事業者	令和２年度～令和６年度：必要性・改善策の検討と実施

事業名	事業の具体的な内容	
駅におけるバリアフリー化の促進	・市民から要望が多い加賀笠間駅・美川駅のバリアフリー化を促進	
	実施主体・関連主体	年次計画
	交通事業者、白山市	令和２年度～令和６年度:バリアフリー化施策について検討し、可能な段階で実施

事業名	事業の具体的な内容	
北陸鉄道石川線の安全輸送・利用向上に向けた設備投資及びその支援	・鉄道施設の将来的な維持管理費用を低減し、長寿命化に資する鉄道施設の補強・改良及びその支援を国、県、沿線市町が協調し当面継続	
	実施主体・関連主体	年次計画
	国土交通省、石川県、白山市、沿線市町、北陸鉄道	令和元年度～：継続実施

期待される効果

- だれもが使いやすい駅の利用環境が整い拠点機能が強化されることで、鉄道の利用促進のみならず、公共交通全体の利用環境の向上が期待されます。安全輸送・利用向上に向けた設備投資及びその支援が確立されることで、公共交通の最も重要な使命である安全な輸送を将来に渡り維持できます。

目標指標

指標	現況値	目標値	備考
市内各駅における1日あたり乗降人数（再掲）	ＪＲ北陸本線 13,150 人/日（H29） 北陸鉄道石川線 1,996 人/日（H29）	ＪＲ北陸本線 14,460 人/日（R6） 北陸鉄道石川線 2,460 人/日（R6）	
市内におけるKパーク（※）利用者数	57 台 （H30）	70 台 （R6）	

※Kパーク事業は、金沢都市圏パーク・アンド・ライドシステム実施協議会が実施している事業。通勤・通学でマイカーを利用している人（要会員登録）を対象とし、指定駐車場にマイカーを駐車し、北陸鉄道グループの路線バス、北陸鉄道石川線を利用してもらうシステム。全体で17箇所の駐車場があるうち、白山市内には4箇所70台分がある（北陸鉄道南部車庫、白山市役所鶴来支所、林公民館、蔵山公民館）。

（２）ＪＲ北陸本線の新駅設置（加賀笠間～松任間）

現況と課題

- ＪＲ北陸本線の加賀笠間～松任間沿線では、土地区画整理事業が進み、既存住宅地の高齢者と新興住宅地への子育て世代の転入者が増加しています。これに伴い、ＪＲ北陸本線利用者の増加とともに、地域の新しい玄関口として新駅設置のニーズが高まっており、アンケート結果においても新駅の設置要望が多く見られました。

課題解決に向けた取組方針

- 将来的な鉄道利用者の増加を図るためにも、加賀笠間～松任間への西松任駅（仮称）設置に向けた取組を着実に進めます。

具体的な事業・実施主体及び実施時期

事業名	事業の具体的な内容	
新駅設置	・ＪＲ北陸本線の利用促進と利便性向上のため、西松任駅（仮称）を新設	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、交通事業者	令和元年度～整備推進

事業名	事業の具体的な内容	
新駅を利用しやすい環境整備	・新駅利用者の需要に対応可能な利用環境整備（広場、パーク・アンド・ライド駐車場等） ・ＪＲ北陸本線利用者増加に向けた地域住民の取組	
	実施主体・関連主体	年次計画
	土地区画整理組合、白山市、市民	令和２年度～：実施

期待される効果

- 西松任駅（仮称）と周辺環境を合わせて整備することにより、鉄道利用者が増加し、収支の好転が期待できます。通勤通学などＪＲ北陸本線利用者の増加に対応するための鉄道機能強化とともに、街のにぎわいを形成し、地域の活性化を図る上で重要な役割を担うことも期待できます。

目標指標

指標	現況値	目標値	備考
西松任駅（仮称）の設置及び供用開始	未供用（H30）	供用開始	

(3) 鉄道駅における鉄道と多様なモードの接続強化

現況と課題

- 路線バス・コミュニティバスは、市内各拠点や各地域から本市の基幹交通である鉄道の各駅への重要な移動手段であり、乗り継ぎ利便性の確保のためには適切なダイヤ接続及び情報提供が必要となります。鉄道と路線バス・コミュニティバスの一層の接続強化のためには、毎年の鉄道のダイヤ改正に合わせて、主要鉄道駅における乗り継ぎを重視したバスダイヤの見直しなどの取組を強化していくことが求められます。

課題解決に向けた取組方針

- ＪＲ北陸本線と北陸鉄道石川線のダイヤを調整することにより、松任・美川地域と鶴来・白山ろく地域間の移動を円滑化します。
- 鉄道ダイヤ改正にあわせ、鉄道駅における路線バス・コミュニティバスの鉄道乗り継ぎダイヤの調整を継続実施します。また、西松任駅（仮称）の設置に際しても、鉄道との乗り継ぎダイヤの調整を検討します。
- 各種媒体を利用した鉄道とバスの乗り継ぎ情報を提供します。

具体的な事業・実施主体及び実施時期

事業名	事業の具体的な内容	
駅接続ダイヤ・運行ルートの見直し	・松任・美川地域と鶴来・白山ろく地域の移動利便性向上を目的としたＪＲ北陸本線と北陸鉄道石川線のダイヤ調整 ・毎年の鉄道ダイヤ改正にあわせた鉄道駅における路線バス・コミュニティバスの鉄道乗り継ぎダイヤの調整 ・西松任駅（仮称）の設置に合わせた路線バス・コミュニティバスの鉄道接続ダイヤの調整及び運行ルートの見直し	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、交通事業者	令和元年度～：継続実施

事業名	事業の具体的な内容	
乗り継ぎ情報の提供	・各種媒体を利用した乗り継ぎ情報の提供及び毎年のダイヤ見直しに合わせた乗り継ぎ情報の更新 ・コミュニティバスを WEB 経路検索サービスに対応させることにより、各種交通機関をまたぐ一体的な接続情報の提供	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、交通事業者	令和元年度～:毎年のダイヤ改正に合わせて実施

期待される効果

- 鉄道と路線バス・コミュニティバスがスムーズに接続することにより、公共交通全体の利用促進が図られ、利用者数の増加と持続可能な交通ネットワークの形成が期待できます。

目標指標

指標	現況値	目標値	備考
コミュニティバスの情報検索サイト数	0　(H30)	4　(R6)	

基本方針２：路線バス・コミュニティバスの持続的な運行継続

(1) 路線バスの運行維持に向けた取組

現況と課題

- 市内路線バス 19 路線のうち、白山ろく地域を運行するうちの 7 路線と松任地域と鶴来地域を結ぶ 1 路線の計 8 路線に対し、路線維持のための助成を県・沿線市で行っていますが、これら 8 路線の利用者数は微減傾向となっています。
- 全国的にバス乗務員の不足が大きな課題となっている中、本市内を運行する路線バスにおいても、乗務員不足の問題から一部路線において、平成 31 年 4 月より土休日ダイヤの運休が行われるなど、路線バスの持続的な運行維持は困難な状況です。

課題解決に向けた取組方針

- 広い市域を有する本市において、平野部と白山ろく地域及び隣接市町を結ぶ路線バスは、主要な交通ネットワークとして重要な位置を占めているため、現行路線網を前提として、行政による運行補助を活用しながら将来にわたって維持していきます。
- 県、市の補助を受けていない路線バスは、引き続きバス事業者においてサービス維持に努めます。

具体的な事業・実施主体及び実施時期

事業名	事業の具体的な内容	
現行路線網の維持	・補助対象路線は行政による運行補助を活用しながら維持 ・補助対象以外の路線はサービスを維持できるよう利用者を確保	
	実施主体・関連主体	年次計画
	バス事業者、白山市、石川県	令和元年度～：継続実施

事業名	事業の具体的な内容	
利用実態を踏まえた改善	・見直し、改善が必要な路線がある場合、「地域公共交通協議会バス路線分科会」において協議し対応	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市地域公共交通協議会バス路線分科会	令和元年度～：継続実施

期待される効果

- 主要な交通ネットワークとしての路線バスが将来にわたって維持され、市内外の往来を確保することが出来ます。

目標指標

指標	現況値	目標値	備考
路線バス（補助対象路線） 1日あたりの利用者数（再掲）	743人（H29）	780人（R6）	
路線バスの市内赤字補助路線数	19路線中8路線（H29）	19路線中7路線（R6）（収支改善により1路線を黒字化）	

（2）コミュニティバス「めぐーる」の継続的な運行

現況と課題

- コミュニティバス「めぐーる」は、各地域の生活に密着した公共交通として運行し、通勤、通学、買い物、通院などに利用されるとともに、交通不便地域の解消に寄与しており、アンケート結果でも路線の維持を求める声が多く見られます。
- 近年の利用者数は、松任・美川地域はほぼ横ばいで推移している一方、白山ろく地域においては児童・生徒数の減少もあって利用が大きく減少しています。
- 乗務員不足の問題により運行の効率化が求められる一方、継続的な運行を実現するためには、車両の計画的な更新を行うとともに、隣接市町のコミュニティバスとの連携による交通網の形成が必要です。

課題解決に向けた取組方針

- コミュニティバスの路線網については、現状の路線網をベースとし、地域の特性や現状等を踏まえルート・ダイヤを見直しながら、継続的に運行するものとします。
- 利用実態把握のための乗降客数調査を定期的に実施し、見直しや改善が必要な路線がある場合は、利用実態を踏まえて適宜、市、バス事業者、地域住民、各種団体等の関係者で構成される「地域公共交通協議会バス路線分科会」において対応策を協議・検討します。
- コミュニティバス車両の計画的な更新を図ります。また、周辺市町のコミュニティバスとも連携を図ります。

具体的な事業・実施主体及び実施時期

事業名	事業の具体的な内容	
乗降調査による利用実態把握	・ルート、ダイヤの見直しの参考とするため定期的に乗降調査を実施 （利用者の意見を直接聞き取ることを重視し、継続実施）	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、バス事業者	令和元年度～：継続実施

事業名	事業の具体的な内容	
利用実態を踏まえたルート・ダイヤの見直し	・乗降調査等の利用実態を踏まえ、ルート及びダイヤの見直しを実施 （特急便による循環の検討等） ・土日休日の運行を検討	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市地域公共交通協議会バス路線分科会	令和元年度～：継続実施

事業名	事業の具体的な内容	
コミュニティバス車両の計画的な更新	・走行距離や車両状況を勘案しながら、計画的な車両の更新 ・利用者数に応じた車両選定と車両数の見直し	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市	令和元年度～:更新計画に基づく計画的な更新

事業名	事業の具体的な内容	
周辺市町のコミュニティバスとの連携	・交通空白地の解消につながるコミュニティバスの連携を周辺市町とともに実施	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、周辺市町	令和元年度～：継続実施

期待される効果

- 利用状況に合わせたルート及びダイヤの見直しを継続的に行うことで、利用者のニーズに合った移動手段を持続的に確保することができます。
- 計画的な車両の更新により、快適にコミュニティバスを利用頂く環境を効率的に整えることができます。
- 周辺市町のコミュニティバスとの連携により、交通不便地域を解消することが期待できます。

目標指標

指標	現況値	目標値	備考
コミュニティバス 1 日あたりの利用者数（再掲）	623 人（H30）	770 人（R6）	
運行改善に向けた乗降調査の実施	年 1 回実施	年 1 回以上実施し、利用者の意見をルート・ダイヤ見直しに反映	

(3) 利便性に優れた運行

現況と課題

- アンケートにおける「市内を通るバスについて改善が必要と思われる事項」では、「運行本数の増加」に次いで「フリー乗降制度（バス停以外の場所においても乗降可能とする制度）の導入、拡大」が多く挙げられています。本市の路線バス及びコミュニティバスのフリー乗降制度は、路線バスの一部路線及び白山ろく地域のコミュニティバスにおいてのみ実施していますが、運行の安全性確保の点で課題が多く、拡大は難しい状況です。
- コミュニティバスは、路線バスの補完機能として運行しているものであることから、バスの利便性向上のためには両者のスムーズな接続が重要です。

課題解決に向けた取組方針

- 白山ろく地域や鶴来地域と松任・美川地域との移動には、路線バスとコミュニティバスが重要な役割を果たしていることから、両者の接続改善に努めます。

具体的な事業・実施主体及び実施時期

<table>
<tr><th>事業名</th><th colspan="2">事業の具体的な内容</th></tr>
<tr><td rowspan="3">路線バスとコミュニティバスとの接続改善</td><td colspan="2">・白山ろく地域や鶴来地域と松任・美川地域とのスムーズな移動のため、路線バスとコミュニティバスの接続改善について「地域公共交通協議会バス路線分科会」において協議し実施</td></tr>
<tr><td>実施主体・関連主体</td><td>年次計画</td></tr>
<tr><td>白山市地域公共交通協議会バス路線分科会</td><td>令和元年度～：継続実施</td></tr>
</table>

期待される効果

- 白山ろく地域や鶴来地域と松任・美川地域との移動のあり方を継続的に検討していくことで、住民ニーズにあった持続可能な交通体系の確立が期待できます。

目標指標

指標	現況値	目標値	備考
地域公共交通協議会バス路線分科会の開催	必要に応じて開催	毎年２回以上開催（接続改善に向けた課題整理、取組）	

(4) 地域主体の新しい運行形態

現況と課題

- 郊外の特に過疎地においては、電車・バスの利用が少なく、現行の公共交通を将来にわたって維持していくことが難しい状況です。まずは、既存の交通事業者の活用により、交通空白地が生じないよう取り組むことが第一ですが、既存の交通事業者によるサービス提供が困難な場合の対策として、地域の市民が主体となった移動手段を確保することを考える必要があります。

課題解決に向けた取組方針

- 過疎地における有料運送等の規制緩和を政府が成長戦略案の一つとして示していることから、交通空白地が生じた場合の対応として、地域ボランティアやＮＰＯ等による自家用有償旅客運送等の運行形態について、地元から提案があった場合には、地元とよく相談し、導入を検討します。

具体的な事業・実施主体及び実施時期

<table>
<tr><th>事業名</th><th colspan="2">事業の具体的な内容</th></tr>
<tr><td rowspan="3">自家用有償旅客運送等の地域主体の新しい運行形態を検討</td><td colspan="2">・地元ボランティアやＮＰＯ等による公共交通空白地有償運送などの運行形態を検討</td></tr>
<tr><td>実施主体・関連主体</td><td>年次計画</td></tr>
<tr><td>市民、白山市、国土交通省、交通事業者</td><td>令和２年度～:国の制度設計を注視し実施を検討</td></tr>
</table>

期待される効果

- 郊外部における新しい運行形態のあり方を継続的に検討していくことで、交通空白地を生じさせない持続可能な交通体系の確立が期待できます。

目標指標

指標	現況値	目標値	備考
地域主体の新しい運行形態に関する地元との相談機会	―	計画年次内に、相談体制を確立	

基本方針３：公共交通のさらなる利用を通じた外出機会の増加と交流の促進

(1) 公共交通に関する情報提供の充実

現況と課題

- 鉄道、バスは毎年ダイヤ改正が行われるため、公共交通の利用者増加につなげるためには、ダイヤ改正に合わせた適切な情報提供が必要です。

課題解決に向けた取組方針

- 紙媒体、WEB 等の多様な媒体を通じた時刻情報の提供を行い、公共交通の利用を促します。
- 複数の公共交通機関を乗り継いでの移動を容易にするため、「鉄道乗継時刻表」や、コミュニティバスの「のりかえ時刻表」を発行します。
- 定期的に広報紙等の媒体で鉄道・バスの利用促進に向けた情報を発信します。

具体的な事業・実施主体及び実施時期

事業名	事業の具体的な内容	
コミュニティバス大判時刻表・携帯時刻表の発行継続及び改良	・毎年の鉄道ダイヤ改正に合わせて、コミュニティバスの大判時刻表及び携帯時刻表の発行を継続 ・路線バスの利用促進につながる時刻表改良	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、交通事業者	令和元年度～:毎年のダイヤ改正に合わせて実施

事業名	事業の具体的な内容	
鉄道乗継時刻表の発行	・毎年の鉄道ダイヤ改正に合わせて、市内各駅から金沢、小松方面及び新幹線への乗継時刻表の発行	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、交通事業者	令和元年度～:毎年のダイヤ改正に合わせて実施

事業名	事業の具体的な内容	
地域別「のりかえ時刻表」の発行	・地域ごとに、買物や通院における路線バス・コミュニティバス及び鉄道での往復推奨ダイヤを示した「のりかえ時刻表」の発行	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市	令和元年度～:毎年のダイヤ改正に合わせて実施

事業名	事業の具体的な内容	
情報検索サイトによるコミュニティバス運行情報提供	・民間プロバイダ（経路検索事業者）に対して路線バスとの接続を含めたコミュニティバスの時刻表の提供	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市	令和元年度～:毎年のダイヤ改正に合わせて実施

事業名	事業の具体的な内容	
幅広い世代の市民に向けた乗車機会拡大への取組	・コミュニティバスの無料体験の実施 ・「まちかど市民講座」に、市民向けに公共交通利用方法（バスの乗り方・乗り換えの仕方等）を追加 ・小中学生に対する乗車機会拡大の取組（例：夏休み期間中の小学生無料乗車体験、「バスの乗り方教室」の開催等） ・高校生の入学時における公共交通利用ＰＲ（例：入学説明会や学校見学会の機会を利用した交通事業者の資料配布等）	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、交通事業者	令和２年度～：事業効果を研究し、可能な段階で実施

事業名	事業の具体的な内容	
ニューズレターによる公共交通利用促進の発信	・広報はくさん、市ＨＰ等の媒体で鉄道・バスの利用促進に向けた情報を発信 ・北陸鉄道石川線については「北陸鉄道石川線利用促進会議」による「ちん電　～石川線通信～」の発行を継続	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、交通事業者	令和元年度～：継続実施

期待される効果

- 公共交通に関する様々な情報を市民に提供することで、さらなる利用促進につなげるとともに、市民の外出機会の増加や持続的な公共交通の維持が期待できます。

目標指標

指標	現況値	目標値	備考
公共交通の利用頻度（月１回以上利用する方の割合）（再掲）	21％（H30）	25％（R6）	
コミュニティバス無料体験の実施	年１回（H30）	年２回以上（R6）	

(２) 交通事業者と連携したイベントＰＲ

現況と課題

- 本市には、北陸新幹線の白山総合車両所や在来線の金沢総合車両所、北陸鉄道の鶴来車輌工場など鉄道関連施設が立地しており、「鉄道のまち」を体験することができる環境にあります。
- 地域の鉄道輸送サービスを一層魅力あるものにしていくためには、地域住民・企業等と鉄道事業者とが連携しつつ、「自分たちの鉄道」という思いのもとに、地域が一丸となって支えていく取組が重要となります。

課題解決に向けた取組方針

- ３箇所の車両基地が近接する「鉄道のまち」として各種 PR を推進するなど、マイレール意識の高揚と観光誘客に取り組みます。
- 北陸鉄道石川線については、観光客向けの各種企画きっぷの発行及び観光部局等と連携した PR、企画列車の運行を通じて、北陸鉄道石川線に対する市民等の愛着を生み出すきっかけ作りを行います。

具体的な事業・実施主体及び実施時期

事業名	事業の具体的な内容	
鉄道車両基地の一般公開等のイベント共催	・鉄道事業者が開催する鉄道車両所の一般公開について、鉄道事業者と市が開催を PR ・マイレール意識を高揚させるため、県、交通事業者、地元が一体となりイベント等を開催	
	実施主体・関連主体	年次計画
	鉄道事業者、白山市、県、市民	令和元年度～：継続実施

事業名	事業の具体的な内容	
北陸鉄道石川線のイベント列車、観光企画 PR	・観光客向けの各種企画きっぷ（恋のしらやまさんきっぷ、石川線まち歩きクーポン等）の発行及び北陸鉄道石川線を活用した新たな観光周遊プランの提案 ・地酒電車、ビール電車、お花見電車等の企画列車の運行	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、沿線市町、北陸鉄道	令和元年度～：継続実施

期待される効果

- 市民や観光客に鉄道を PR することで、「鉄道のまち」としてのブランド力の向上や、地元に愛される鉄道としての機運を醸成することが期待できます。

目標指標

指標	現況値	目標値	備考
鉄道車両基地の一般公開、北陸鉄道石川線の各種イベント	各交通事業者による開催	関連主体の協力体制の構築	

(３) 地域･企業と連携した公共交通ＰＲ

現況と課題

- 多くの市民にとって、日常の移動手段が自動車中心になっている中、市内で開催されるイベントなどを通して公共交通を身近に感じてもらうなど、公共交通にふれ合う機会を増加させることが必要です。

課題解決に向けた取組方針

- 市内で開催される各種イベントにおいて、公共交通利用促進の活動を実施します。
- 商業施設など沿線企業と連携して、コミュニティバスの利用促進を図りつつ収入にもつながる事業についても実施を検討します。

具体的な事業・実施主体及び実施時期

事業名	事業の具体的な内容	
地域イベントと連携した公共交通の利用促進	・市内で開催される各種イベントにおける公共交通利用促進活動 （例：「ほくてつ電車まつり」と鶴来地域のイベントの連携企画）	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、交通事業者、各企業・イベント主催者等	令和元年度～：継続実施

事業名	事業の具体的な内容	
企業と連携した公共交通の利用促進 PR	・バス停及び時刻表への広告掲載やバス停のネーミングライツ（命名権）の付与等、企業との連携による利用促進 ・市内企業や商工団体に向けた公共交通 PR 機会の拡大（例：工業団地事務局長会議を利用した公共交通 PR）	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、交通事業者、各企業等	令和元年度～：継続実施

期待される効果

- 地域の商業施設や企業との連携により、「地域で支える公共交通」という意識が芽生えるほか、市内における消費活動と公共交通利用促進の相乗効果が期待できます。

目標指標

指標	現況値	目標値	備考
コミュニティバスの広告掲載社数	39 社（H30）	45 社（R6）	

（４）高齢者に向けた公共交通利用ＰＲ

現況と課題

- 全国的に高齢運転者が増加を続けており、本市においても高齢運転者が関与する交通事故の増加が懸念されます。運転に不安を覚える高齢者等の運転免許自主返納も徐々に増加している中、自動車や運転免許をもたない、もしくは運転免許を返納した高齢者が不自由なく外出できる環境を整えていくことは、高齢者の健康増進やまちの活性化の観点から重要です。

課題解決に向けた取組方針

- コミュニティバスの高齢者無料乗車証を継続して発行します。
- 運転免許を自主返納した高齢者に対する支援事業を継続して実施します。
- 高齢者が公共交通に親しみを持ってもらうための乗車体験を促進します。

具体的な事業・実施主体及び実施時期

事業名	事業の具体的な内容	
コミュニティバスの高齢者無料乗車証の継続発行	・平成 30 年 4 月より実施している、コミュニティバスの高齢者無料乗車証（75 歳以上の市民は運賃無料化）の継続発行と拡大の検討	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市	令和元年度～：継続実施

事業名	事業の具体的な内容	
白山市高齢者運転免許自主返納支援事業	・有効期限内の運転免許証を自主返納した高齢者に対する支援事業	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市	令和元年度～：継続実施

事業名	事業の具体的な内容	
高齢者への乗車体験促進	・高齢者向けイベントにおける公共交通利用を促すための「コミュニティバスの乗り方教室」等の開催	
	実施主体・関連主体	年次計画
	白山市、交通事業者	令和２年度～：計画、実施

期待される効果

- 自動車に依存しすぎない社会の実現により、高齢者の交通事故の減少が期待出来ます。
- 高齢者の公共交通利用に対するハードルを下げ移動を促すことで、外出増加による健康増進のほか、消費の増加による地域経済の活性化が期待できます。

目標指標

指標	現況値	目標値	備考
コミュニティバス高齢者無料乗車証発行枚数	1,875 枚（H30）	3,480 枚（R6）	